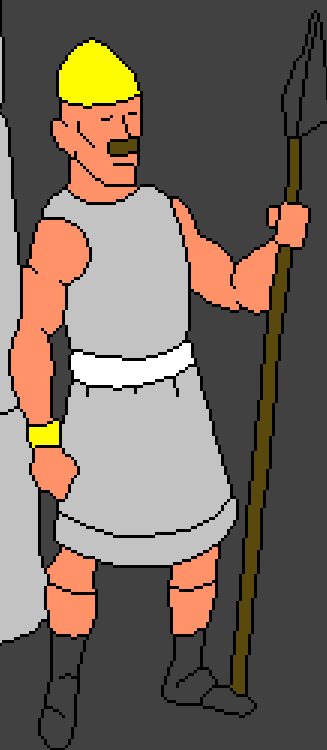


こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



ネヘミヤの
おお
大いなるかべ



ぶん
文: E. Duncan Hughes

え
絵: Jonathan Hay

かいさくしゃ
改作者: Mary-Anne S.

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki
監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ
出版社: Bible for Children
www.M1914.org

©2007 Bible for Children, Inc.

きよか 許可: たにん 他人に う 売らない かぎ 限り はなし このお話の また コピー、又はプリントは、
きよか 許可されています。

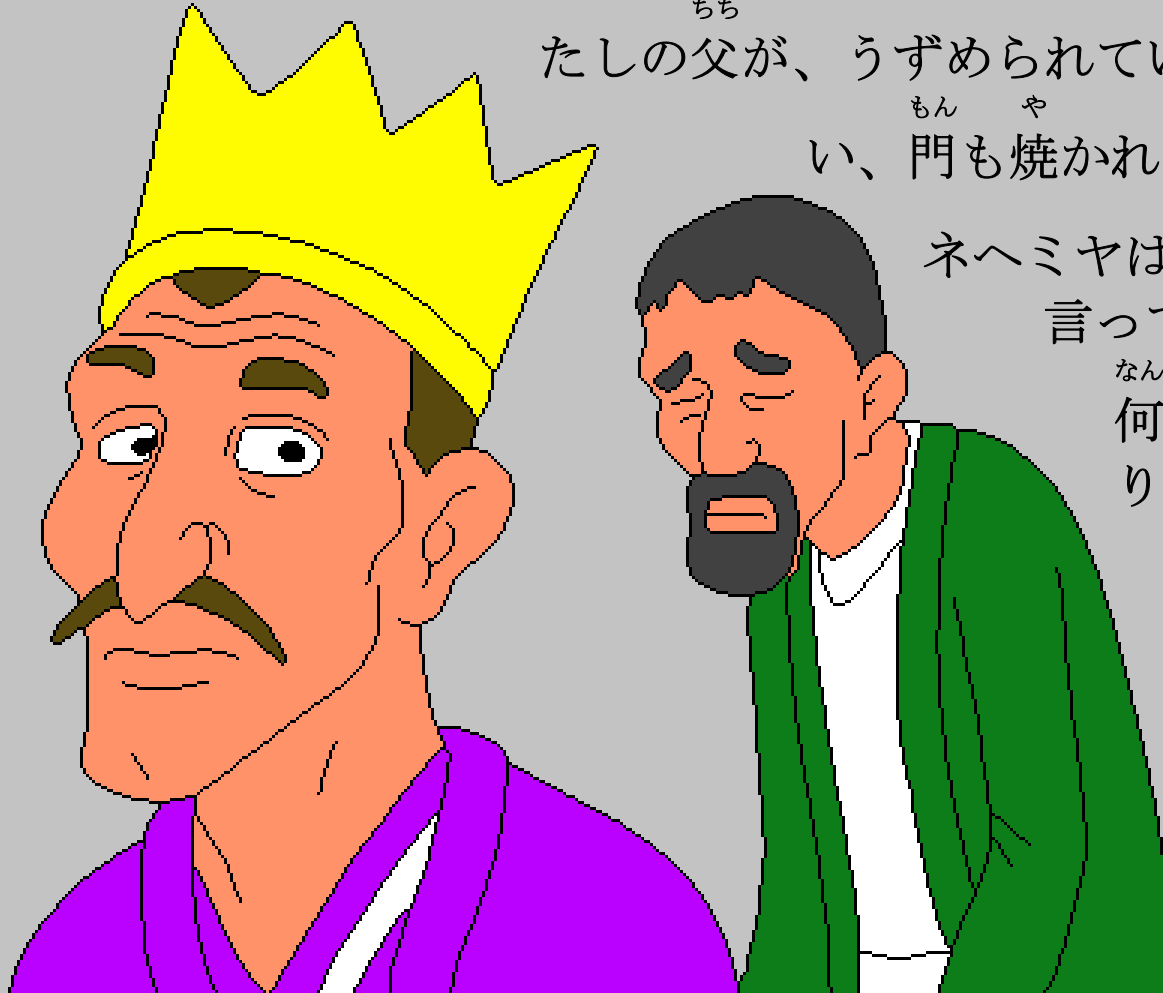


ちから くに はなし くに
ペルシャという とても力のつよい国が、ありました。このお話は、その国が
せかいじゅう おう
世界中で、いちばんつよかったころのことです。そこの王さまアルタクセルクセ
おう せかい いち ちから おう おう
ス王は、世界で一ばん力のある王さまでした。その王さまに、
つか たいせつ やくにん ひとり じん
仕える大切な役人の一人に、ユダヤ人
な おとこ ひと
でネヘミヤという名の男の人がいま
しごと おう た
したよ。かれの仕事はね、王さまの食
さき た はい
べものを先に食べて、「どくが入って
いないかな？」って、しらべること
おう
でした。こうやって、かれは王さ
まも
まを守っていたのです。



ある日、ネヘミヤは、とてもかなしそうなかおをして、王さまの前にやってきました。
「いったい、どうしたんだろう。」王さまは、しんぱいです。ネヘミヤは、
「王さま、どうか、ずっといつまでも、生きてくださいますように。」と言ってから、
わけを話しました。「王さま、わたしが、かなしんでいるのは、亡くなったわたしの父が、
うずめられている町が、あれはててしま
い、門も焼かれてしまったからなのです。」

ネヘミヤは、エルサレムの町のことを、
言っているのですね。そこは、
何年もまえに、たたかいがあり、
ほろぼされていました。



おう
王さまアルタクセルクセスは、たずねました。「ネヘミヤ、それじゃ、どうした
らいいのかな？」ネヘミヤは、王さまにおねがいました。「王さま、わたしを
エルサレムへ行かせてください。そうすれば、町をたてなおすことが、できるの
です。」「よし、わかった。行くがいい！」アルタクセルクセス王は、よろこん
で、さんせいしてくれましたよ。それにね、

おう
王さまは、ネヘミヤがたびをしているあいだ、

まも
守ってやろ

おも
うと思って、

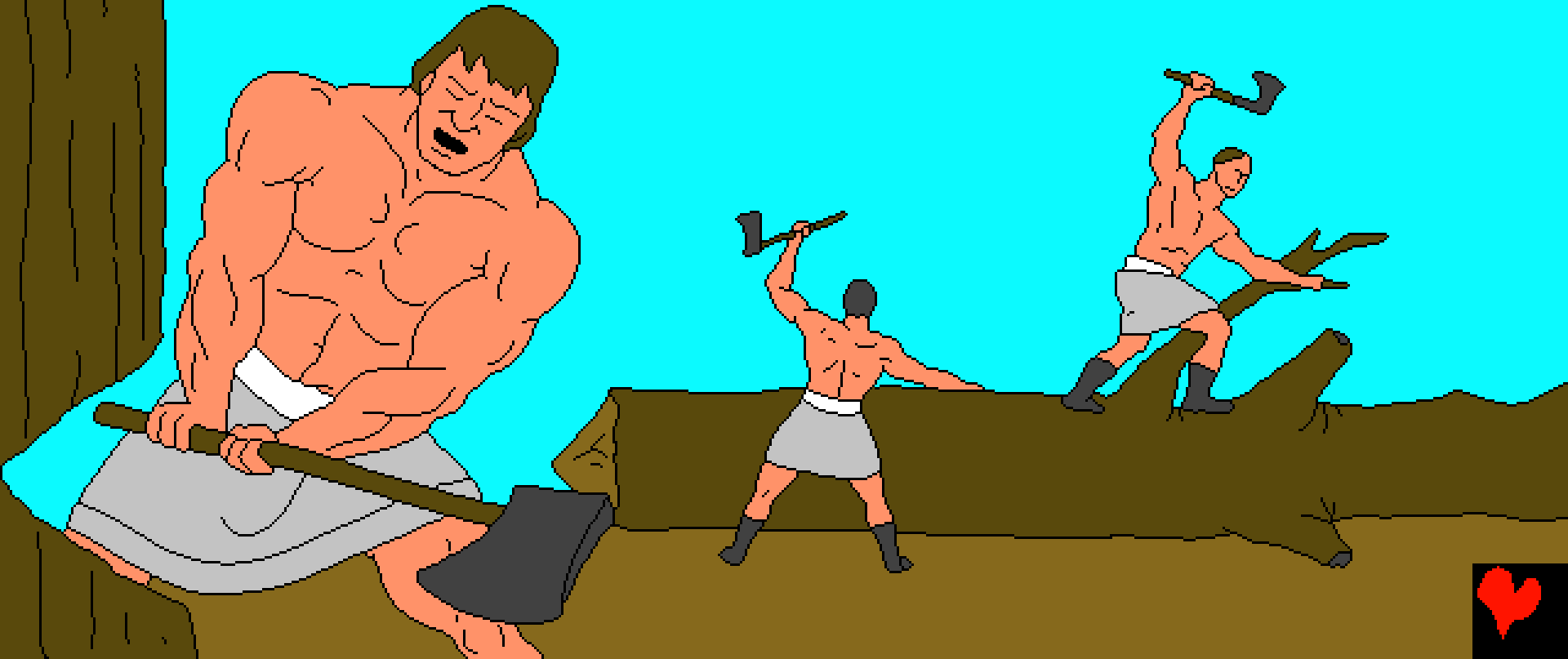
やくにん
そこの役人

てがみ
への手紙も、

も
持たせました。

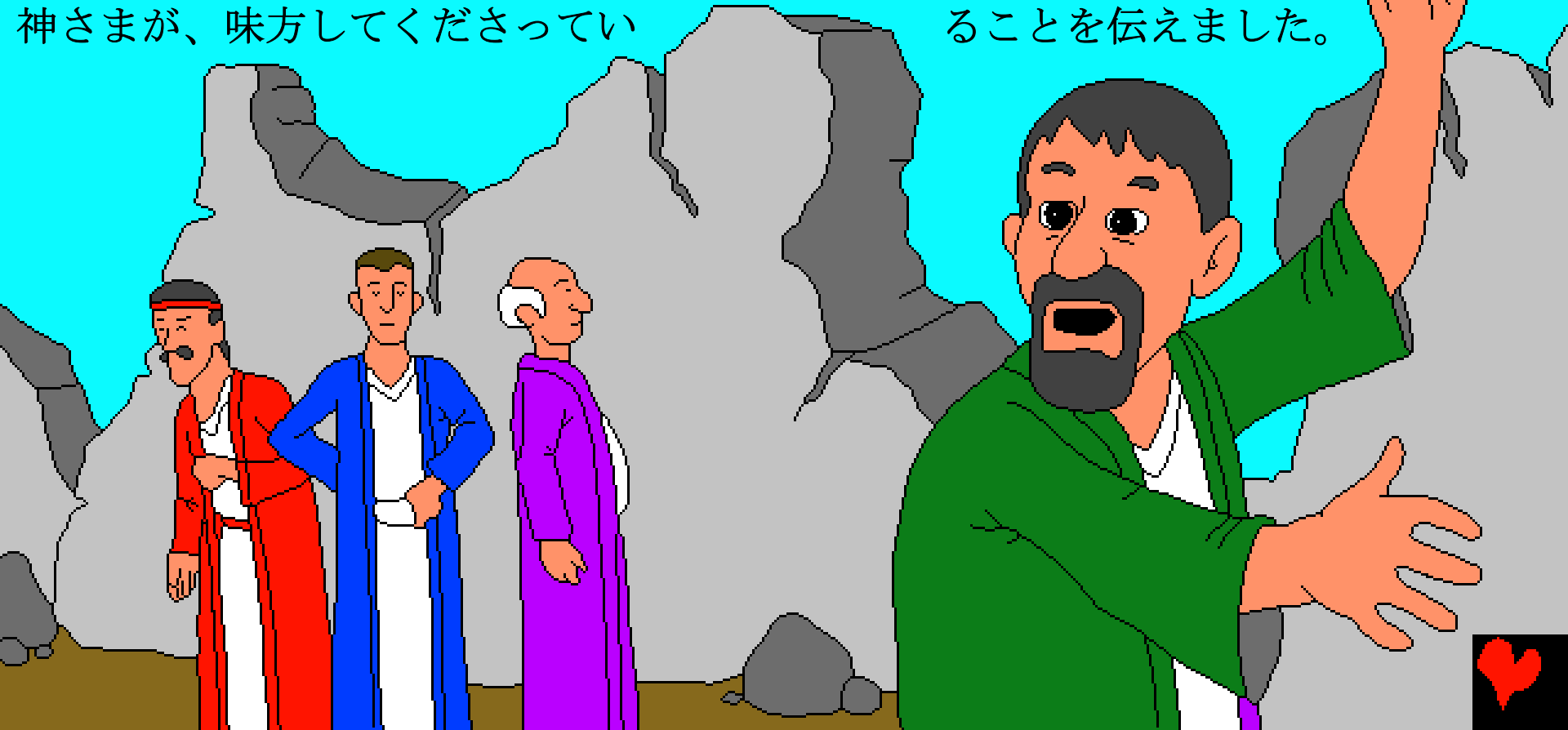


おう
王さまはね、それだけじゃなくて、もっともっとネヘミヤを助け
たのですよ。じつは、アサフという人にてがみを書いて、ネヘミ
ヤに持たせました。アサフは、エルサレムの王さまの森を、かん
りする人です。そのてがみには、こう書かれていました。ネヘミ
ヤが、町のかべをたてるために使う木材を、できるだけたくさん
用意するようにとね。



エルサレムに着いたとき、ネヘミヤは、町の役人たちを、あつめて言いました。
「われわれは、今、たいへんなときなのだ。この町は、すっかり、ほろびてしま
った。門までやかれてしまったのだから。さあ、みんなで、新しくたてなおそ
うではないか。」ネヘミヤは、かれらにアルタクセルセス王も、さんせいされ
ていることを言いました。そして、何よりも一ばん大切なこと、つまり、
神さまが、味方してくださっていら

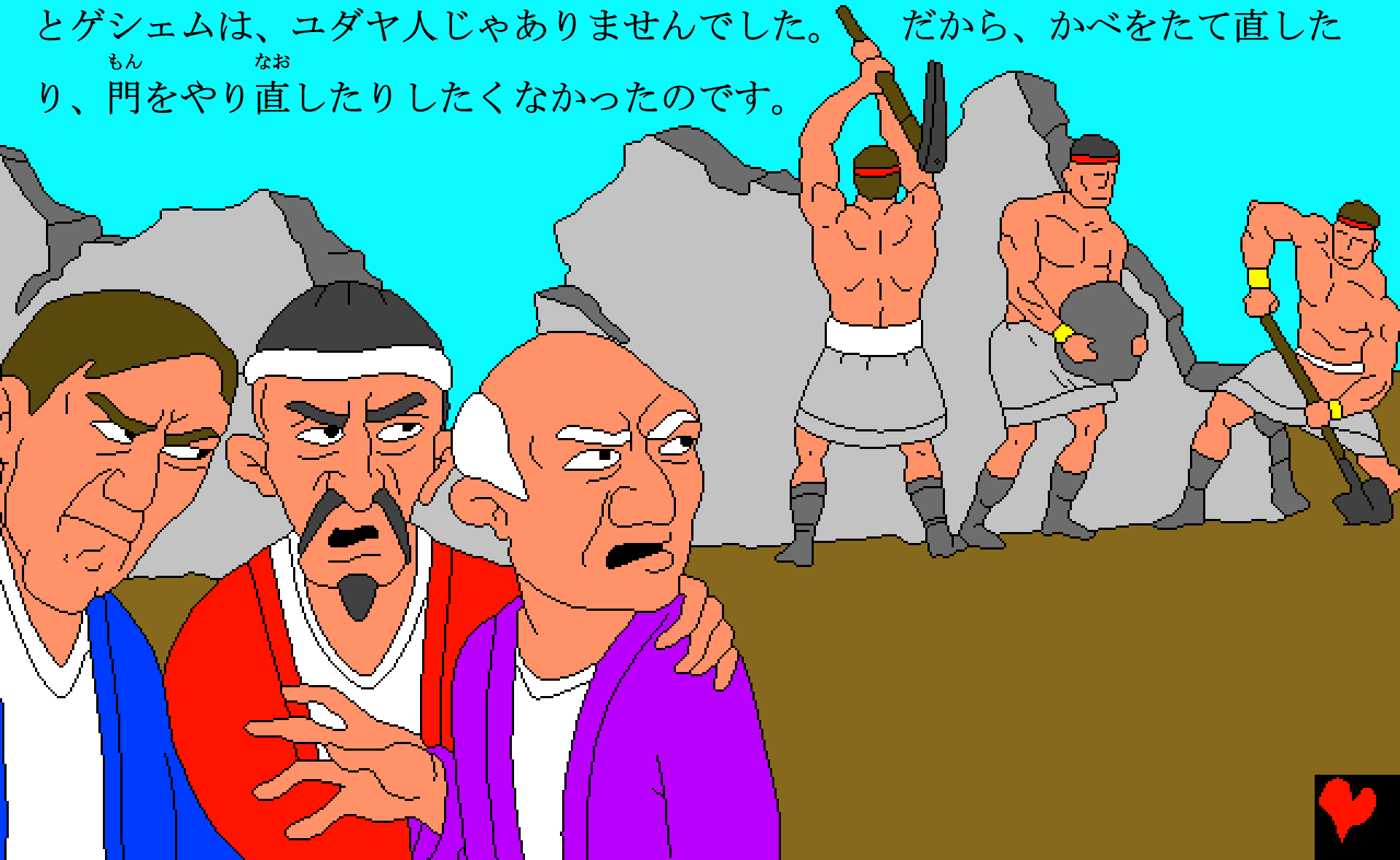
ることを伝えました。



ネヘミヤが、神さまを信じ求めるつよい気もちは、人びとに「やろう！」と
いう気を、おこさせたにちがいありませんね。かれらは、うなずきあって言いま
した。「ようし、やろうじゃないか！」ネヘミヤは、それぞれの家へ行き、かべ
のどの部分を、なおさなければならぬかを知らせました。



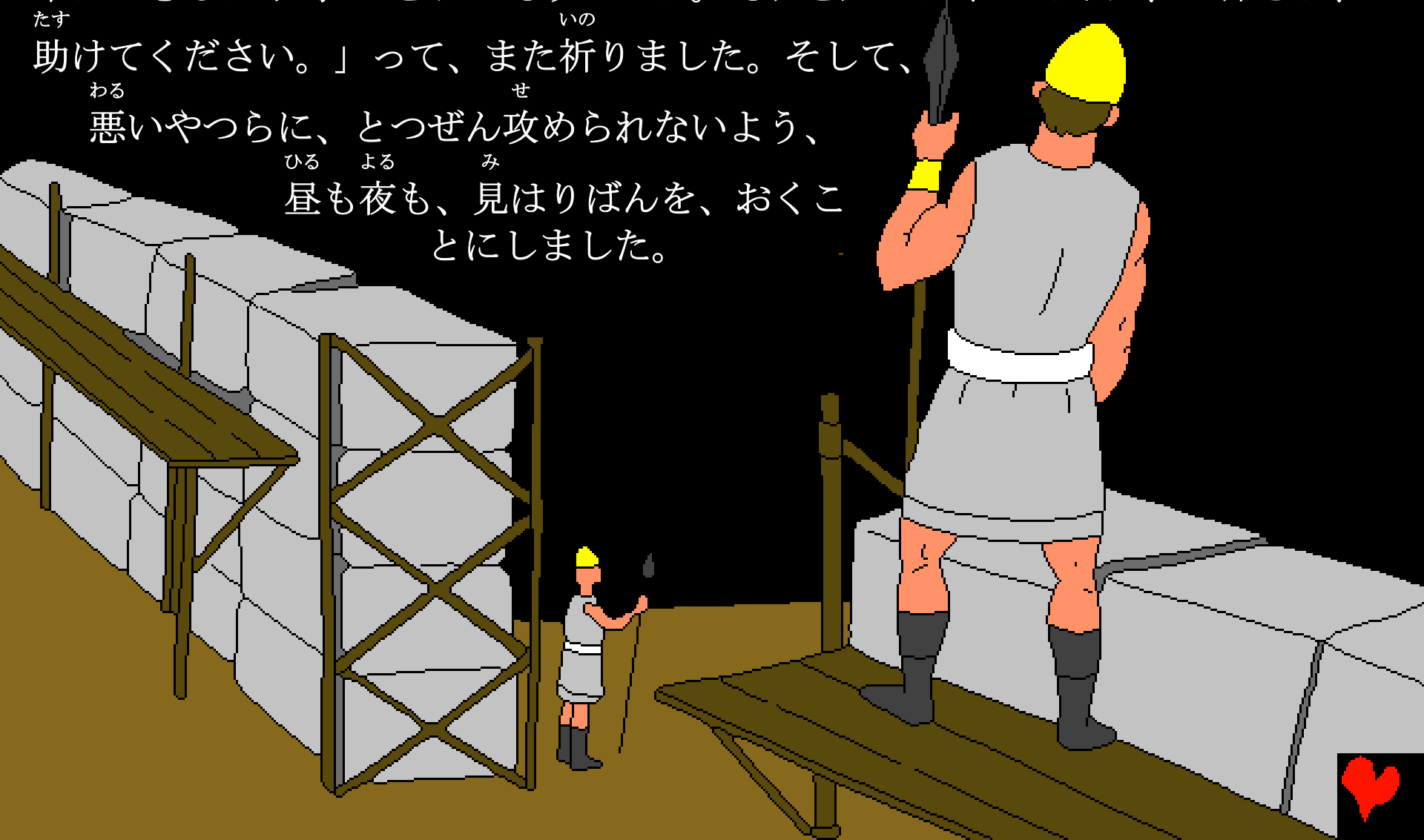
でもね、みんながみんな、かべをたて直そうって、よろこんで言ったわけじゃないんですよ。サンバラテという名の男の人、それにかれの二人の友だちトビヤとゲシムは、ユダヤ人じゃありませんでした。だから、かべをたて直したり、門をやり直したりしたくなかったのです。



さて、仕事^{しごと}がだんだんすすんでくるのを見て、サンバラテは、とても腹^{はら}がたってきました。そこで、かれ^{とも}とその友だちは、ユダヤの人^{ひと}をからかいました。トビアは、こんなことを言いましたよ。「やあい、そんなに、うすっぺらいかべの建てものをつくって、どうするんだい？小さなキツネ^しがやってきて、こなごなに^{いの}するだろうさ。」ネヘミヤは、いくらからかわれても、知らんかお。かわりに、ただ祈^{いの}りました。だって神さま^{かみ}が、そんなやつらを、さばいてくださるの^し ですから。



ネヘミヤたちを、どんなにからかっても、何の役にもたたないようです。そこで、かれらはいっしょに計画をたてました。エルサレムを攻めよう、そして町の中にできるだけ争いをおこそうってね。それを知ったネヘミヤは、「神さま、助けてください。」って、また祈りました。そして、悪いやつらに、とつぜん攻められないよう、昼も夜も、見はりばんを、おくことにしました。



ひと

ユダヤの人たちは、ほんとうにいっしょうけんめい働きました。それで、

はたら

だんだん、つかれてきたようです。ある人たちは、なんだかこわくなっ

ひと

てきて、こんなことを考えるようになりました。働いている間に、てき

かんが

はたら

あいだ

が攻めてきて、自分たちを殺してしまうんじゃないだろうかって。それでも、

せ

じぶん

ころ

ネヘミヤは、この仕事を、とちゅうで

しごと

み

やめたりしません。まわりに見はりの

人をおいて、みんなをはげましました。

「わたしたちには、どんなに強いてき

し

よりも、もっと強い神さまが、ついてい
らっしゃるんだ。」こういって、

つよ かみ

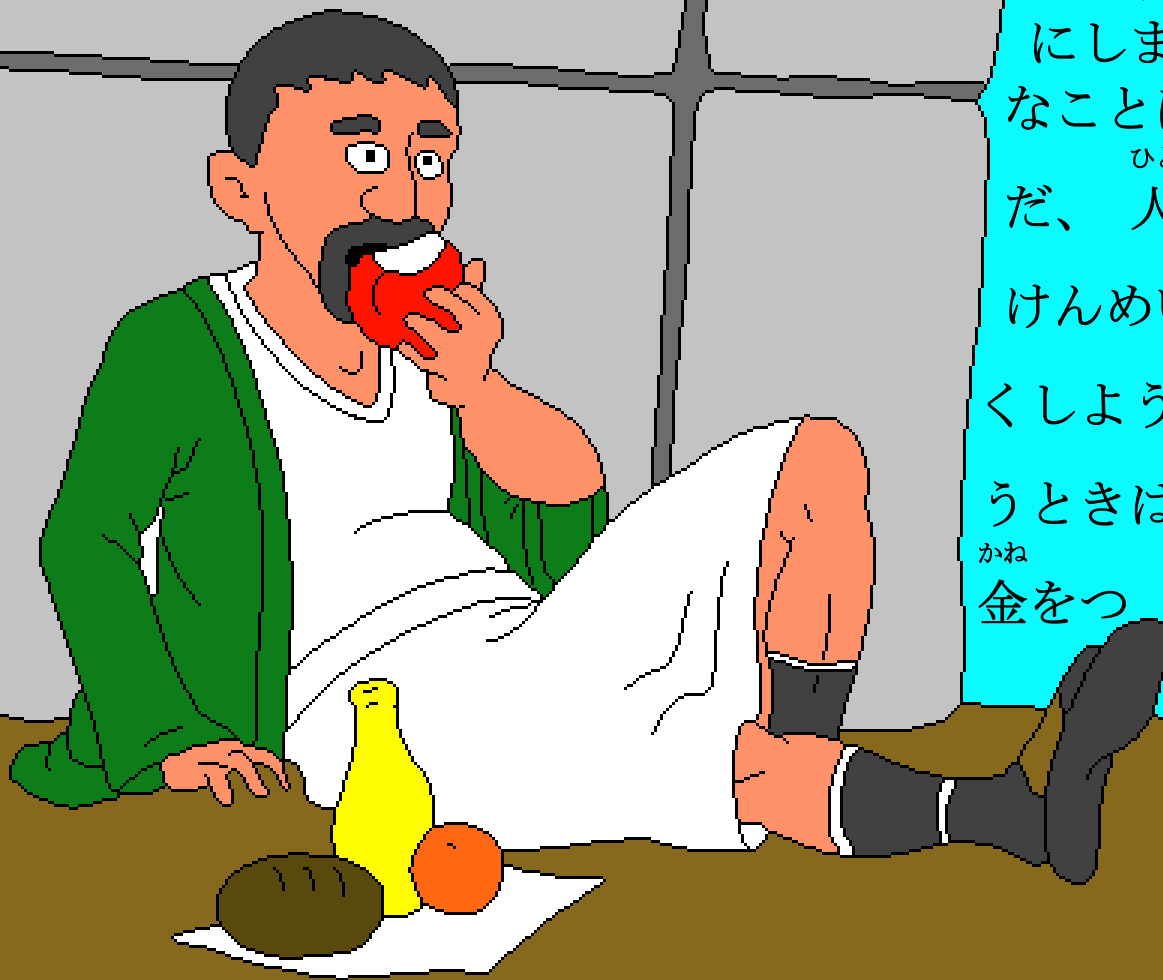
みんなに神さまのことを、

思い出させました。

おも

だ

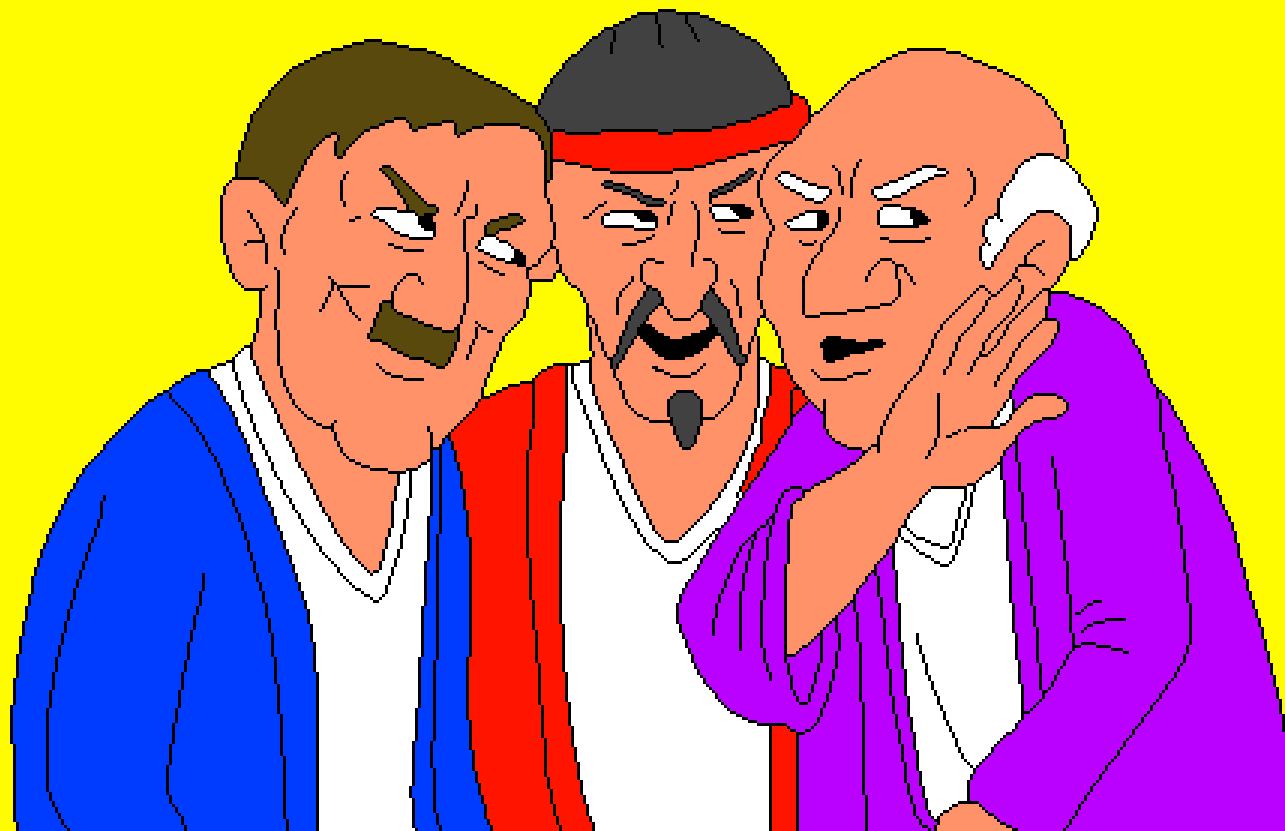




てほん
ネヘミヤは、みんなのよいお手本になろうとしました。アルタクセルク
おう
セス王は、ネヘミヤをエルサレムの
ちょうかん ひと かね た
長官にし、人びとからお金や食べものを、とりたてることができるようにしました。でもね、かれは、そんなことは、いっさいしませんよ。た
ひとびと
だ、人々といっしょに、いっしょう
はたら あたり
けんめい働きました。かべを、新しく
た か
しようってね。食べ ものを買
じぶん
うときは、もちろん 自分のお
かね
金をつ かいま
すよ。



やっとのことで、人々は、かべをつくり終わりました。ただし、まん中の門の
とびらだけ、まだですね。あれあれっ、かべがすっかりできあがったことを聞いた
サンバラト、トビヤとゲシエム、なにやら悪いことを思いついたようですよ。
ネヘミヤを、^{こま}困らせてやろうって。



かれらは、ネヘミヤにメッセージをおく^{おく}い^い送^くって言^いました。「オノというところ^あで、
あ^あ会^いましょ^う。」けれど、ネヘミヤは、かれらが自分^{じぶん}をだ^まして、町^{まち}からつれ^だ
だ^だ出^でし、困^{こま}らせようとして^いるとわ^かりました。そこで、ネヘミヤは、かれらにこ
か^かのようにへん^かじを、書^かきました。「わたしは、あなた^あたちに会^あいにい^いけません。
いま^{いま}、し^{やす}ごとを休^{やす}むわけにい^いかないんです。」



とうとう、かべも、とびらも
できあがりました。ネヘ

まち

ミヤは、町をまもるため、

み

ひと

あちこちに見はりの人

をおきましたよ。

それから、ネヘミ
ヤはひとつのきま
つく
りを作りました。

ひ

それはね、お日さ



あ

まが上

から

って、空

がほん

と

うに明

もん

くなるまで、門をあけてはならないつ

よる

もん

てきまりです。夜になると、門をみんな

しめてしまい、かんぬきが、

かけられました。



まち

あんぜん

せかいじゅう

ひとびと

だから、町はもう安全ですね。世界中においやられたユダヤの人々が、またエルサレムにもどってきましたよ。ネヘミヤは、うれしくてたまりません。どうし

かみ

あた

てって、たくさんのつらいことをのりこえて、神さまがネヘミヤに与えられた

しごと

仕事を、さいごまでや

ったのですから。
そのあとも、ネヘミヤは、みんなといっ

しょにエルサレムに

す
住みました。「いつも、

かみ
神さまにしたがいま
しょう。」って言
って、はげましつ
づけましたよ。



ネヘミヤの ^{おお}大いなるかべ
^{かみ}神さまの御ことば、^み聖書に^{せいしょ}記されて^{しる}いるおはなしです。

^きネヘミヤ記

^みあなたの御ことばが^{ひら}開かれると、^{ひかり}光が^{あた}与えられます。

^{しへん}詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしゃいます。それを、神さま
は、罪つみとよばれています。その罪つみのむくいは、死しです。

かみ わたし かみ
けれども、神さまは、あなたをとも愛あいしていらっしゃいますので、ただ一人ひとりのみ子こイエスさまを、こ
の世よに送おくってくださいました。そしてあなたつみの罪つみのために、十字架じゅうじかじょう上で亡なくなられたのです。けれども
それから、イエスさまはよみがえられ、天国てんごくのいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ
まを信じしん、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま
は、今いま、あなたところの所きへ来きて、あなたなかの所すのころいの中に住すんでくださいます。そして、いつまでもイエスさ
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信しんじるなら、神さまにこう言かみってください。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛あいする神かみさま、私わたしは、あなたかみが神しんさまと信しんじます。あなたひとは人ひととなり、私わたしたちの罪つみのために亡なくなっ
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きい
ていらっしゃいます。どうか、私わたしの所なかのころきの中つみに來わたして、罪わたしをゆるしてください。それで、私いまは今いま、あた
らしい命いのちをいだけます。そして、いつか、あなたところの所いへ行いき、いつまでもあなたといっしょにこいる
ことができまるのです。あなたこにしたがえまいすよう、あなたいの子ことして生きることができますよう、たす
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

